

畜産みやぎ

発行所
仙台市青葉区上杉一丁目2番16号
宮城県畜産会
電話(262-9180)

編集発行人 百井英一

定価 1部60円

印刷所 K K東北プリント



第3回ミルクランドフェア(於、ダックシティ丸光10月3～8日)

もくじ

平成2年度畜産振興補助事業について……	2
上期の生乳需給状況について……	3
第9回全日本ホルスタイン共進会について……	4
東日本ブロックあか牛研究会盛會裡に終了……	5
「宮城のふるさと農業まつり」を終えて……	6
第3回みやぎミルクランドフェアについて……	7
第29回仙台牛枝肉共進会について……	7
系統豚の組合せ検定について……	8
ブロイラーの腹水症……	9
随想……	10
系統豚の名称「ミヤギノ」に決まる……	10
人の動き……	10

平成2年度畜産振興 補助事業について

宮城県畜産課

畜産振興補助事業は、地方競馬（全国30ヶ所で開催）の売上の一部を畜産振興の施策に役立てるため設けられた制度であり、国の補助事業の補完的な役割を果たしております。

このたび、平成2年度の要綱が制定されましたが、内容を見ますと事業の見直しが行なわれ、現在、公共

牧場へ助成しております。「乳用牛公共牧場利用促進」「雌牛生産推進・雄牛放牧推進」「ダニ駆除薬剤散布」の3事業が統合され、新たに「公共牧場利用推進」に組み替えられました。

本県で取り組めると考えられる主な事業は下表のとおりですので活用されるようお知らせします。

申請は、元年12月上旬となっておりますので、所轄の家畜保健衛生所（県域団体は直接）経由で県畜産課へ申請願います。

申請手続き等不明な点につきましては、所轄家畜保健衛生所又は畜産課へお問い合わせ下さい。（畜政係）

平成2年度畜産振興補助事業の概要

事業名	補助事業概要	事業主体	補助対象	補助率
畜産経営合理化事業 1. 酪農生産対策	(1) 公共牧場利用推進 ① 広域・中核型公共牧場 特定地域以上を受益の範囲とし主として優良乳用基礎雌牛を集団で放牧育成する牧場	農協・農協連・公社	⑦ 牧場経営改善施設更新、改修、補修費 ⑧ 草生産性向上費 ⑨ 新技術普及費	1/2 以内 1/2 以内 1/2 以内
	② 共同利用型牧場 特定の農業者が共同で主として優良乳用基礎雌牛を集団で放牧育成する牧場	①に同じ	①の⑦に同じ ①の⑧に同じ ①の⑨に同じ	1/2 以内 1/3 以内 1/2 以内
	(1) 公共牧場利用推進 ① 広域・中核型公共牧場 特定地域以上を受益の範囲とし、主として優良肉用種雌牛を周年飼養し、生産雌子牛を農業者に供給するか、集団放牧育成する牧場	農協・農協連・公社	⑦ 牧場経営改善施設更新、改修、補修費 ⑧ 草生産性向上費 ⑨ 新技術普及費	1/2 以内 1/2 以内 1/2 以内
2. 肉用牛生産対策	② 共同利用型牧場 特定の農業者が共同で、主として優良肉用種雌牛を周年飼養し、生産雌子牛を農業者に供給するか集団で放牧育成する牧場	5人以上の任意団体 特認団体	①の⑦に同じ ①の⑧に同じ ①の⑨に同じ	1/2 以内 1/3 以内 1/2 以内
	(2) まき牛用種雄牛導入 月令は15ヶ月以上30ヶ月未満	農協・農協連・公社	種雄牛導入費	定額 黒毛和種 600千円以内/頭 その他 500千円以内/頭
	(3) 肉用牛改良推進 国の補助する肉用牛群改良基地育成事業に基づくものであること。	畜産会・農協連・肉用牛協会	⑦ 未去勢雄牛保留奨励費 ⑧ 息牛取得交配奨励費 ⑨ 指導推進費	定額 5千円以内/頭 " 12千円以内/頭 標準事業費の1/2以内
3. 鶏、めん羊その他の家畜の生産対策	(1) めん羊導入 ・ 10頭以上導入し、5人以上の農業者に4年（雄は3年）以上の貸付けをする。 ・ 月令は3ヶ月以上24ヶ月未満	農協・農協連・農事組合法人・5人以上の任意団体	種めん羊導入費	定額36千円以内/頭

畜産の健康と未来に貢献する

獣医薬品・畜産用医薬品・ワクチン・器具機材

小田島商事株式会社

本社 岩手県花巻市卸町66番地
TEL 0198 264151(代)

古川営業所 宮城県古川市稲葉字大江向179-1
TEL 0229 233888(代)

花巻営業所 水沢営業所 青森営業所
盛岡営業所 大館営業所 八戸営業所
大船渡営業所 横手営業所 山形営業所
酒田営業所 福島営業所

ORION
ともに前進 技術のオリオン

酪農家の

声を反映した製品づくりと安心のおけるアフターサービスはオリオングループの誇りです。

東北オリオン株式会社

本社 〒983 仙台市若林区鶴代町1番68 ☎(022) 284-0691
宮城営業所 古川市稲浦字道の上106番1号
☎989-61 TEL古川(0229) 23-1631

上期の生乳需給状況について

宮城県生乳販売農業協同組合連合会

本年度上期における全国の生乳需給について、生乳生産は、昨年度下期以降の生乳需要に対応した増産体制により、継続して高い水準で推移しており、対前年比で第1四半期106.3%、第2四半期105.6%とわずかながら鈍化傾向となっている。

次に用途別販売乳量については、飲用向生乳が対前年比104.1%と比較的高い伸びを示しているが、5、6、9月は天候不順のため、3%前後の伸びにとどまった。又、特定乳製品向けは、飲用向生乳需要の伸びを生乳生産の伸びが上回ったため、上期は前年比109.3%の伸びとなっており、期首において逼迫基調であった乳製品需給は、政府による脱脂粉乳10千トン、バター5千トンの輸入と相俟って徐々に改善し、9月末の乳製品在庫は脱脂粉乳で約1.9カ月分、バターで約2.8カ月分程度になっているものと推測される。

本県における生産状況については、昨年度下期から引き続き順調に推移しており、第1四半期前年比108.7%

、第2四半期同106.2%、上期累計同107.5%とほぼ計画通りの生産状況となっております。(別表)

用途別販売内訳については、飲用向生乳は5~7月の天候不順による消費停滞の為、対前年比102.4%と全国平均を下回る伸びになり、その為特定乳製品向けは同109.1%と大巾な伸びを示しております。

本年度の本県の生乳計画生産出荷目標は当初178,713トン(特別調整乳3,386トン含む)でしたが、上期の実績を踏まえ会員と協議した結果、本県の最終生乳計画生産目標は、当初目標より500トン下回り178,213トン(対前年比107%、特別調整乳2,886トン含む)となっております。

尚、下期の生乳計画生産目標は89,105トン(対前年比106.6%とかなりの高水準にあり、決して達成が楽な数字にはなっていません。

又、今年から生乳生産の安定性を配慮し、酪農経営の計画的運営をある程度保障する為、中期生乳需給計画が設定(3ヶ年計画)されておりますので、これらの目標に向かい、更には酪農の安定的発展を図るべく計画生産達成について特段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

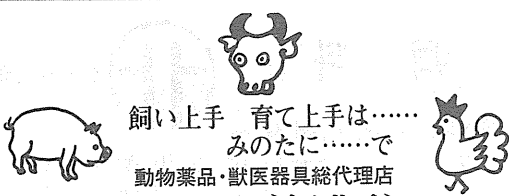
(業務課 武田良介)

平成元年度上期(4月~9月)生乳計画生産実績

単位: kg, %

生産者団体	9月分受託販売乳量			4~9月分受託販売乳量累計		
	受託乳量	前年比	計画比	受託乳量	前年比	計画比
蔵王酪農	2,546,017.0	98.99	97.96	16,458,699.0	103.08	101.91
宮城酪農	3,916,502.2	108.04	96.13	24,717,140.4	109.72	100.29
県経済連	2,594,859.0	105.03	101.48	16,448,328.0	106.62	102.14
仙台酪農	577,834.0	108.03	100.32	3,693,398.0	107.84	101.41
宮県酪連	2,222,446.0	108.51	100.93	13,889,282.0	111.43	104.06
栗原酪農	656,644.0	102.79	96.57	4,080,692.0	105.47	100.31
登米酪農	546,897.0	106.26	95.11	3,484,828.0	107.18	95.47
本吉酪農	459,860.0	104.54	98.26	2,951,570.0	103.33	98.81
遠田酪農	389,976.0	104.14	100.51	2,442,729.0	107.51	104.12
山田酪農	154,012.0	102.78	98.73	940,876.0	109.63	101.83
合計	14,065,047.2	105.21	98.53	89,107,542.4	107.46	101.42

(注) 計画比は修正基礎目標数量より算出



飼い上手 育て上手は……
みのたに……で
動物薬品・獣医器具総代理店
株式会社 美濃谷

本店	山形市蔵王成沢字町浦491-2	TEL 033121
山形店	山形市太白区山田字羽黒堂5番216	TEL 02454306
仙台店	仙台市太白区山田字羽黒堂5番216	TEL 02454306
鶴岡店	鶴岡市大字布目字東通り57-1	TEL 0240963
いわき店	いわき市常磐湯本栄田3	TEL 024640300

ビフィズス菌は

ヨーグルト中の乳酸菌の働きは、どれも同じではありません。

生きてきたまま腸までとどきます。

ビヒダス®

ヨーグルト 500ml

宮酪乳業株式会社
名取市飯野坂五丁目1番3号
☎ (022) 384-5181

第9回全日本ホルスタイン共進会について

宮城県ホルスタイン協会

5年に一度の改良の成果を競い合う乳牛の祭典、第9回全日本ホルスタイン共進会が昭和26年の第1回より満38年を経過し、この平成2年11月22日から同11月26日までの5日間熊本県で開催される運びとなりました。思い起こせば、第7回全共の直前昭和54年から始

まった生乳の計画生産と価格据置と多難な時期をむかえ、また国の乳用牛改良対策も昭和46年の選抜事業、49年からの牛群検定、そしてこれらを総合した乳用牛総合改良推進事業へと進展し今日にいたりました。

近年、乳質の改善により飲用牛乳は順調に伸び、そのような中で開催される第9回共進会は今までの改良の成果を発揮する絶好の時期であるので、宮城県ホルスタイン協会の会員の皆様には多数出品し、代表牛を参加されますようお知らせいたします。

尚、出品区別と資格、頭数は次の通りであります。

出品区分

部 別	区	分	月令範囲(生年月日)		
第1部	ホルスタイン種牛 又は同種系牛	雌 未経産	12月以上15月未満	母は乳脂量指数180以上のもの又は検定中のもの	平成元年8月23日から平成元年11月22日まで
第2部	同	同 同	15月以上18月未満	同	平成元年5月23日から平成元年8月22日まで
第3部	同	同 同	18月以上22月未満	母は乳脂量指数180以上のもの	平成元年1月23日から平成元年5月22日まで
第4部	同	同 同	22月以上26月未満	同	昭和63年9月23日から平成元年1月22日まで
第5部	同	同 経産	2才以上3才未満	乳脂量指数180以上のもの又は検定中のものにあつては母が乳脂量指数180以上のもの	昭和62年11月23日から昭和63年11月22日まで
第6部	同	同 同	3才以上4才未満	同	昭和61年11月23日から昭和62年11月22日まで
第7部	同	同 同	4才以上5才未満	乳脂量指数180以上のもの	昭和60年11月23日から昭和61年11月22日まで
第8部	同	同 同	5才以上	同	昭和60年11月22日以前
第9部	多回検定	同 同		3回以上検定を受け3回の平均乳脂量指数175以上のもの	
第10部	母系	同 同		母を同じくする娘牛2頭1組、乳脂量指数180以上、ただし娘牛は検定中のものを含むことができる。この場合は母が乳脂量指数180以上のもの	

発育促進・食欲増進・栄養補給に

バイミルク

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

日本全薬工業株式会社

飼料は  まるきた印

採卵鶏用配合飼料
ブロイラー配合飼料 肉牛用配合飼料
乳牛用配合飼料

北日本飼料株式会社

石巻市川口町3丁目2番8号
TEL 石巻 0225 (22) 6111
FAX 石巻 0225 (22) 6116

出品条件の詳細

1. 出品は第1部から第9部までの各部については1戸1頭とし、かつ各部を合わせて2頭以内とする。

第10部については1戸1組以内とする。

第1部から第8部までの都道府県の出品頭数の過半数は、経産牛でなければならない。

第10部の出品は次の条件による。

- (1) 同一組内に双子を出品させることはできない。
 - (2) 出品牛は種系牛を含んでよい。
 - (3) 出品牛は他部と共通でよい。なお、組の構成は同一都道府県でなくてもよい。
2. 出品牛はホルスタイン種雌牛又は同種系牛で、いずれも国内産登録牛であるものとし、次の条件を備えたものとする。なお、受精卵移植による生産牛の出品にあっては、その牛の血統登録時の所有者の居住する都道府県を産地として取扱う。

- (1) 第1部から第6部までの出品牛は、自県産で、かつ出品者が平成2年11月21日まで引き続き6月以上所有し、飼養しているもの。
- (2) 第7部から第9部までの出品牛は、出品者が平成2年11月21日まで引き続き1年以上所有し、飼養しているもの。

ただし、飼養の条件にあっては出品者が居住している都道府県、市町村又は加入している団体等が所有し、出品者が引き続き(1)にあっては6月、(2)にあっては1年以上管理しているものはこの限りではない。

- (3) 第10部の出品牛にあっては、4才未満のものは(1)を、4才以上のものは(2)を適用する。
- (4) 未經産牛で生後22月以上のものは妊娠確実であるもの。

出品頭数

	個 体			多回 検定	母系群		計
	未經産	経産	計		組数	単独 出品	
都道府県	125	135	260	20	11	20	300
宮城県	3	3	6				6

※ 詳しくは最寄の畜産支所にお尋ね下さい。

(那須正晃)

東日本ブロックあか牛 研究会盛會裡に終了

日本あか牛登録協会宮城県支部

日本あか牛登録協会主催により、去る8月2～3の両日、大和町及仙台中央食肉卸売市場において開催された。参集範囲は、東日本地域におけるあか牛飼養県である秋田県(飼養頭数約6,000頭)、北海道(同3,500頭)、宮城県(同1,800頭)、静岡県(同1,500頭)の関係者を始め、あか牛の本場熊本県よりも各畜協の壮々たるメンバーが多数出席した。

研究会は先ず登録協会の續会長より東日本地方は国内肉牛生産の拠点であり、又九州地域に次ぐあか牛の生産地域でもある。今後の肉牛情勢を考える時、あか牛の進むべき道そして生かすべき道を十分検討して欲しい旨の挨拶があり次いで事務局より一般情勢及事業報告、さらに各支部よりそれぞれの情勢及問題点等が報告された。2日目は第二回東北あか牛枝肉共進会出品牛50頭の枝肉を材料にして評価研究を行った。

尚本研究会では中央審査委員、滝本勇治氏(東北農試家畜第一研究室長)同、黒肥地一郎氏(前鹿児島大学教授)及東北大学水間教授らから貴重な助言指導を頂いた。

主な意見要旨

1. 輸入牛肉に対抗するためには肉質の良いものを作ることが大切である。あか牛は肉質の良いものが出るがバラツキが大きい。今後は斉一化を図らなければならない。
2. 肉質改善のためには優良雌牛群の改良も含め優れた産肉能力を持つ種雌牛を全力をあげて作り出すべきだ。
3. 肉質は血統による要因が大きいので肥育牛の成績を追跡調査し飼養管理の改善も含めてA-2以下の枝肉が出ないようなあか牛を作るべきだ。
4. 上ものねらいの肥育はどうしてもコスト高になる。経済性の追求にはいくらで売れたことより、1日増

動物用
医薬品 (牛専用)

トルラミックス

特殊酵母+必須ビタミン+ミネラル配合

株式会社 トーシン

古川市古川字上古川屋敷9番地の1
TEL 0229 (24) 3 2 1 1 (代)

さらに充実あなたの経営

くみあい畜産経営簿

〔採卵鶏・ブロイラー・養豚・肥育牛〕
〔繁殖牛・酪農・養魚・青色申告用〕



農協・宮城県経済連・全農

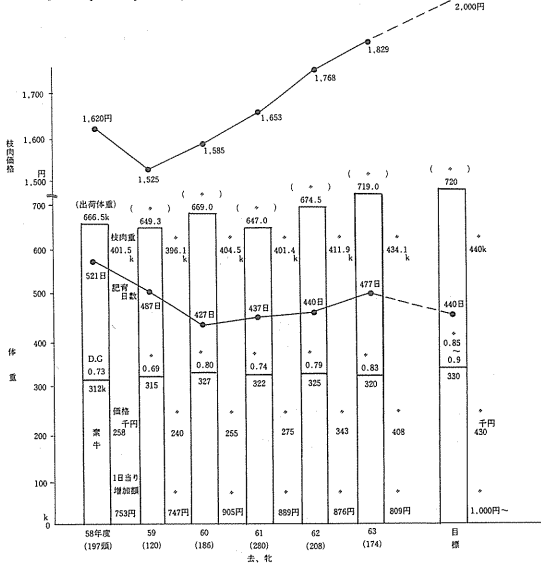
加額で勝負すべきである。

5. 過大な脂肪交雑を追求する余り、あか牛の特性を失うようであれば、むしろ黒牛を飼った方がよいのではないか。
6. あか牛の特性を十分生かすためには遊休牧場を活用した牧牛方式による放牧飼育を行い、子牛の低コスト生産を実現し、地域の一貫経営を考えるべきではないか。

等々の意見が出されたが、滝本、黒肥地の両中央審査委員が2日間の研究会を次のとおり総括した。

今後の肉牛は低コストで、然もおいしい牛肉を作ることが最重要課題であるので、あか牛の特性はより以上改良すべきであり、又肉質の改善についても出来得る限りノーマルな健康状態にもって行き、血統の吟味と増体能力をマッチさせた方途を考究しながら、飼養管理の改善も含めた技術の確立を急がなければならない。又今回出品された枝肉は、肥育期間が若干長い割に脂肪がうすい。肥育期間を伸ばしたからと云って良くはならないが、概ね24ヶ月程度を目安にしたらよい

あか牛の年次毎肥育出荷成績の推移と目標(去)



のではないか。今後生産者の方々とも十分話し合い、より優れたあか牛に育てて行くよう関係者の一層の努力をお願いしたいと締めくくり、2日間にわたる研究会を盛会裡に終了した。

「宮城のふるさと農業まつり」を終えて

迫家畜保健衛生所

「宮城のふるさと農業まつり」が去る11月10日～12日までの3日間、米山町農村環境改善センター、中津山公民館等を会場として開催されました。当初11月に開催されるということで天候が心配されましたが、3日間の期間中は、好天に恵まれ、会場は連日賑わいを見せ、11万人を越える見物客が訪れ、盛会裡の内に終了しました。

私達の担当した「わくわく動物ファミリーランド」では、動物展示コーナー、牛乳や手づくりハムの即売コーナー、動物とのふれ合いコーナー、写真コーナー、手づくりハムの実演コーナー、サービスコーナー、ガチョウのレースなどを行ないました。動物展示コーナーでは、山羊、綿羊、豚等の日頃身近かな動物からアルゼンチンミニホース、七面鳥、合ガモ等珍しい動物の展示も行ない、中でもアルゼンチンミニホースには人垣ができるほど見物客が集まり、またガチョウのレースでは、子供達が思うようにガチョウを前に走らせることができず、うろろうろする様子を見て見物客の爆笑を誘う一幕もありました。また、動物とのふれ合いコーナーでは、子供達に人気があり、小犬や兎と遊ぶ多くの子供達の姿や風船を扱うために行列を作る光景も見られました。手づくりハムの実演コーナーでは、実際にソーセージやハムを作り、見物客の注目を集め、中には作り方を熱心に尋ねる人もいたほど盛況でした。

最後に、物心両面に渡る御援助、御協力を賜りました多くの関係者の方々に対して、紙面をお借りして心から厚く感謝申し上げます。(半沢康弘)

2年連続上物数
日本一!
仙台牛銘柄推進協議会

正統の
育ちと味

動物用薬品器材のことなら 古い伝統
と信頼のある東北獣医にご用命下さい

本社 仙台市青葉区上杉3丁目3-8

東北獣医薬品株式会社

TEL (225) 73330・73338・73339

仙台営業所 仙台市青葉区上杉三丁目3-8
022 (225) 7338-9

古川営業所 遠田郡小牛田町字関根館野28
0229 (34) 2018-9

仙北営業所 登米郡迫町佐沼字萩洗1
0220 (22) 2278

第3回みやぎミルクランド フェアについて

宮城県牛乳普及協会

去る10月3日から8日までの6日間にわたり、牛乳乳製品の消費拡大を図る為、第3回みやぎミルクランドフェアをダックスティ丸光8階催事場において開催致しました。

今年で3回目を迎えたみやぎミルクランドフェアも一般消費者に浸透し、行政並びに関係者の協力のもとに成功裡に終了出来たことは、協会として感謝に耐えません。

初日のオープンセレモニーは、協会関係役員、行政関係者、テレビ局、新聞社等約200名出席の中で、伊藤県普及協会会長並びに吉田県副知事が開会挨拶、続いて濱田東北農政局長、菊地県議会議長、桜井畜産振興事業団理事及び昌谷全普協会長の祝辞があり、鈴木ダックスティ丸光仙台店副店長、消費者代表、生産者代表を加え、9名によるテーブルカットを行ない盛大にオープンしました。

フェアの内容は次の通りですが、コーナー毎の普及活動は関係者の協力によるものです。

尚、期間中の中場者は延べ7万5千人と前回は大巾に上廻りました。

フェアの内容

1. 普及宣伝ゾーン
2. デモンストレーションゾーン
3. 料理講習会ゾーン
4. 販売ゾーン
5. イベントゾーン
6. ヘルシーチェックゾーン
7. 抽選ゾーン
8. ウェルカムゾーン

(武田良介)

第29回仙台牛枝肉共進会 について

宮城県経済農業協同組合連合会

農林水産祭参加第29回仙台牛枝肉共進会は、11月6～9日の4日間仙台中央食肉卸売市場において盛会裡に終了しました。

◎チャンピオン

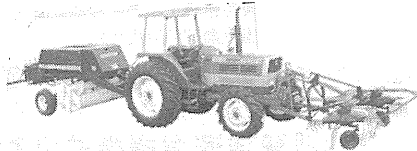
第1部	黒毛和種去勢の部 (30ヶ月令未満)	南郷町	木村 正
第2部	黒毛和種去勢の部 (30ヶ月令以上)	南方町	佐瀬 米子
第3部	黒毛和種雌の部	米山町	川原 美治
第4部	褐毛和種去勢の部 (30ヶ月令未満)	大郷町	高橋 亨
第5部	その他の部	鹿島台町	塩野 貞夫

◎市場成績

区分	頭数	平均枝肉重(kg)	良質牛割合(%)	枝肉単価(円/kg)		
				高値	安値	平均
第1部	50	422.3	62.0	4,145	1,743	2,480
第2部	100	427.7	68.0	6,119	1,552	2,542
第3部	30	364.7	33.3	3,453	1,900	2,404
計	180	416.1	60.6	6,119	1,552	2,505
第4部	15	445.9	13.3	2,542	1,538	2,097
第5部	55	454.1	5.5	2,255	1,251	1,476

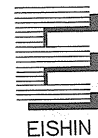
注) 良質牛とは、規格A-5・B-5をさす。

WORLD カボウ サンシャイン



株式会社 **五十嵐商会**

仙台市若林区卸町五丁目1番地4
電話 (022) 236-2525 (代表)



クスリの総合卸

株式会社 **エーシン**

取締役社長 山田 修造

畜産営業所 仙台市青葉区木町通り1-5-19 ☎(022)267-7211
古川市福浦字道の上137-1 ☎(0229)24-1211

本社 仙台市若林区卸町2丁目10-3 ☎(022)284-8111

< 畜試便り >

系統豚の組合せ検定について

発育性、産肉性に優れた宮城の銘柄豚を作出するため昭和58年度から開始されたランドレース種の系統造成に伴う組合せ検定試験は、昭和63年度から第2次検定を実施中であります。今回は、造成中第4世代雌3産目に大ヨークシャー種(W)系統豚雄3系統(ハヤチネW, サクラ401, ゼンノーW)を交配し、得られた

一代雑種雌(LW)を育成し発育成績及び繁殖成績を検討した後、デュロック種雄を交配し3元雑種肉豚(LWD)の成績を検討する計画に従い継続中です。

そこで、本紙では系統途上豚3産目の繁殖成績と一代雑種(LW)雌の交配までの発育成績を検討したのでその成績を紹介します。

表1は造成中の第4世代3産目の成績についてまとめてあります。なお、今回示しました各項目間に、交配雄の系統間についての1元配置分散分析を行なった結果、各系統間に有意差を認めませんでした。

表-1 繁殖成績

Table with 14 columns: 組合せ, 交配雄数, 受胎雌数, 受胎率(%), 分娩頭数, 分娩期間, 産子数(雄, 雌, 計), 1腹平均(産子数, 離乳数), 育成率(%), 生時体重(kg), 離乳時体重(kg), 8週令体重(kg). Rows include Hayachinew, Sakura 401, Zenno, and a total row.

*:人工授精 上段:平均値 下段:標準偏差値

表-2 発育に関する成績

Table with 13 columns: 組合せ, 実施時期, 性別, 供試頭数, 30kg到達日, 90kg到達日, 30~90kg D/G, 120kg到達日, 生時~120kg D/G, 初回発情日, 初回発情体重, 交配日齢, 交配時体重. Rows include Hayachinew, Sakura 401, Zenno, and a total row.

*: n=26, **: n=8 上段:平均値 下段:標準偏差値

Advertisement for STAR and TCM machinery. Includes text: 'より豊かな明日の農業のために', 'STAR', '頼もしい働き者 牧草梱包稲わら梱包に!!', 'Mr1000 Mr2000DX Mr3000DX, Mr4000DX', 'へーべーラTHB2020', 'TCM東洋運搬機株式会社', '東北ティール・シー・エム株式会社', '983 仙台市宮城野区中野字葦畔135-1 電話 022-259-6351'.

全体の1腹あたり産子数は11.4頭、28日齢での育成率は92.0%で、ともに前産の成績を上回りました。生時体重は1頭あたり平均1.3kgであり、28日目の離乳時体重は約8kg、また8週齢の体重は約22kgと純粋種の成績を大幅に上回る結果を示しました。その中で、サクラ401を交配した群は他の2系統に比べ生時体重のバラツキが大きく、このバラツキは離乳時、8週齢時、その後の体重においても同様な傾向を示しました。また、ハヤチネWを交配した群は人工授精を活用しましたが、他の項目同様、統計的な差を認めませんでした。

産子の1代雑種雌(以下LW)は、離乳後1代雑種血統登録の後、雌のみ各系統9頭を選抜し同一条件下で育成しました。その結果は表2に示す通りです。30kgから90kgまでの不断給餌、9頭群飼条件下では、サクラ401を父にもつ群は90kg到達日齢が1番早く、この間の1日平均増体重は919g、ハヤチネWを交配した群でも、バラツキが大きいです。910gと高い値を示しました。全体平均でも892gと、系統造成第5世代雌豚の757gと比べても雑種強勢効果が表れているものと思われます。しかしながら、交配雄の系統間に統計的な有意差は繁殖成績同様、いずれの項目についても認められませんでした。

LW育成豚は体重90kg以降交配までは4~6頭群飼で制限給餌を行ない育成を継続しました。その結果、初回発情の認められた日齢及び体重は、ゼンノーW交配群において初回発情日齢がやや遅れる豚がみられましたが、統計的に有意でなく、全体平均で発情日齢は189.5日、その時の体重は119.3kgでした。生時から初回発情の目安となった120kg時までの1日平均増体量は、613gとなり制限給餌の影響でバラツキも小さくなりました。

交配は、デュロック種雄サクラ201を3頭使用し、初回発情後の発情回帰3~4回目に、交配させました。全体の平均交配日齢及び交配時体重は、それぞれ254日、148kgでした。

現在継続中の組合せ検定試験は、県下5か所で実施中の農家での現場検定を含め、平成2年秋までに終了し、今後LWの繁殖成績、LWDの産肉成績等をお知らせ出来ると思います。今回お知らせした成績は、交配時までの途中成績であります。今までのところ、いずれの試験項目についてもW種交配雄の系統間に差は認められませんでした。したがって、本県で系統造成中のランドレース種は、今回使用した3系統のW種系統豚に対し、相性的には不可なく雑種強勢効果を発揮しているものと思われます。

(養豚家きん科 長谷部博昭)

ブロイラーの腹水症

仙台家畜保健衛生所

近年わが国で多発し、問題となっているブロイラーの腹水症は特定の原因物質が関与せず、直接的な原因が明らかでないものが多く見られます。

原因としては、心不全、腎機能低下、肝不全および低蛋白血症が上げられます。特にブロイラーにおいては、その誘引として毒性油脂、カビ毒、フラドリゾン、抗コクシジウム剤の高濃度添加による中毒、酸素欠乏、腫瘍、感染症および鶏舎内の温度が重要な要因として考えられています。

また、発生時期が秋から春にかけて集中することから、冬期の低温(鶏舎内の日内温度差-5~15℃)が発生の要因として重要なこと、さらにブロイラーという過肥状態とそれを助長する高エネルギー飼料給与が本症の主要な要因と考えられ、それに基づく再現試験も行なわれています。

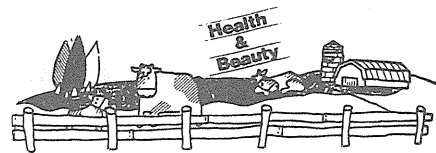
症状は、2週から3週齢のものに発育不良、沈うつ、羽毛逆立、食欲減退および腹囲膨満が主なものです。病鶏を解剖してみると腹水貯留の他右心室拡張、肝硬化、肺水腫等がみられます。

発生防止のためには、飼育管理改善として①健康雛の導入②良質飼料の給与③鶏舎の換気④酸素不足の注意⑤気温の急変への十分な対処が重要となります。衛生管理面では①疾病の侵入防止②適切なワクチネーション③消毒の励行④適正な薬剤の使用(適正濃度使用、2種以上の薬剤添加時の配合禁忌に注意する)が大切です。

もし腹水症の発生が認められた場合には、隔離し保温に注意して見るとともに、最寄りの家畜保健衛生所に相談し、早期に原因究明をするとともに対策の指示を受け、経済的損失を最小限にすることが大切です。

(病性鑑定課 岸田 忠政)

牛乳を飲んで食べて健康に!



宮城県牛乳普及協会

随想

畜産後継者育成に思う

昨今、農業後継者の嫁とり問題が全国的に取りざたされている中で、特に畜産農家が深刻になっている。新聞テレビ等ではフィリピン花嫁の導入問題(山形県朝日町)、秋田県大曲では予算化して委員会を設け農業担い手育成対策検討会を開催している等、各地で後継者育成問題には真剣に取り組んでいる。宮城県もその対応に着手しようとしているが、実はホルスタインの集りで毎年持ち回りで3県会議(福島、山形、宮城)を実施している。その際に福島県畜産課酪農係長の話の例を紹介すると、予算として酪農後継者育成資金5百万円を計上したとの事。某県議員にどう使うのかとの質問に酪農家後継者チョンガールの集団見合費であると説明し、その実施方法は県内の27才以上の酪農家チョンガー(今回27名)と県内の女子職員の多い職場から応募(今回25名)して実施したそうである。1日目は酪農家の見学、その夕方より温泉場近くで自己紹介を兼ねて屋外パーティーを開催して自由に話し合える時間をもうけ、温泉に宿泊してもらって帰りまでにアンケートを提出してもらった。その結果を取纏めてみると8割の娘さんは①その気で出席したのに本人は積極性がぜんぜんない②自分自身に将来の設計がない③両親のここと兄弟の話が多い④リクリエーション作りや休日作りに努力設計がない等の順であった。しかし2組がめでたく成立した本人から話しを聞いた結果、パーティーでA娘さん(非農家)と意気投合して3日目にデートを申込んで豪華に和牛ステーキで食事して某ホテルに入りヘルメットを付けずに実陰(実印)を押し直接愛情を積極的に現わしたのが性交(成功)したと2人とも同様な話であった。

この結果から見ても畜産農家の独身後継者にもっと男女交流の場と機会を作ってもらい理解を深めることと、両親の方々は良い娘さんができたらハワイ(モデル2頭分位の費用)あたりでデートする位の思いやりがあってもよいのではないか。また本人は、生活設計を立て積極的にアタックして良い伴侶を求めて両親を安心させてこそ畜産振興に結び付くものと信じるものである。

(宮城県畜連 高橋 亮)



系統豚の名称

「ミヤギノ」に決まる!

宮城県畜産課

全国で認定を受けている系統豚は、現在、ランドレース種11、ハンブシャー種4、デュロック種2、パークシャー種1、大ヨークシャー種9の計27系統となっております。これらの名称は「サクラ」「エド」「ポウソウ」「イワテハヤチネ」「サツマ」等、それぞれ国、県の名勝、古称等になっており、利用農家に親しまれています。

本県においても、昭和58年度から雄豚12頭、雌豚60頭の素材豚を導入し、初産回転方式による選抜・淘汰を行う閉鎖群育種の手法により、発育性・産肉性に優れ、斉一性の高いランドレース種系統豚の造成を進めて参りましたが、今年度をもって完成する運びとなりました。

この系統豚が広く養豚農家の方々に親しまれ利用されるよう「みやぎの系統豚」の名称を募集したところ農家の皆様や関係団体の方々から307点の応募がありました。これらの名称から宮城県系統豚名称選定委員会において3点の名称を選定し、さらに県において3点の名称について調査・検討を重ね、最終的に「ミヤギノ」に決定しました。「ミヤギノ」の由来は郷土の地名である「宮城野」からきており、仙台城築城以前は広瀬川東部の広大な平原であったといわれます。また、宮城野の名は「宮城野萩」として「古今集」や「源氏物語」にも詠まれ、本県の豊かな自然を誇示できる名称と思われれます。

今後は日本種豚登録協会の規定に基づき、系統豚の認定申請を行い、中央協議会で検討され、平成2年2月中旬には正式にランドレース系統豚「ミヤギノ」として認定を受けることとなります。最後に、多くの名称を応募いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

人の動き

宮城県経済農業協同組合連合会

10月30日付

新	旧	
黒川家畜市場長 兼酪農畜産課	古川支所兼 黒川家畜市場	高橋 昭郎
仙台支所	黒川家畜市場長 兼酪農畜産課	沢田 勝彦
食肉販売課	東京支所	布田 晃一
東京事務所	食肉販売課	森 正義